

「第2回畠敷・願万地地区内水対策検討会」議事要旨

日 時	平成31年 2月 6日(水) 14:00~16:00
場 所	国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 2階会議室
出席者	<p>○委員</p> <p>河原能久(広島大学大学院教授)、中本俊幸(広島県北部建設事務所長)、柴田 亮(三次市副市長)、落田正弘(三次市総務部長)、坂本高宏(三次市建設部長)、道中貢(三次河川国道事務所長)</p>
配付資料	資料-1 第2回畠敷・願万地地区内水対策検討会 議事次第
	資料-2 同上 出席者名簿
	資料-3 同上 配席図
	資料-4 第2回畠敷・願万地地区内水対策検討会 検討資料
議事要旨	<p>1. 開会</p> <p>2. 検討資料の審議</p> <p>事務局より以下の項目について、説明を行った。</p> <p>① 浸水要因の検証</p> <p>② 畠敷救急内水排水機場のポンプ停止に伴う影響</p> <p>③ 大谷川排水樋門の操作</p> <p>④ 浸水被害軽減対策の目標設定(案)</p> <p>⑤ 内水対策の考え方(案)</p> <p>【浸水要因の検証についての審議結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨は昭和47年7月豪雨に続く大きな出水であり、馬洗川の水位が長時間にわたり高い水位であったため、樋門の閉鎖時間が長くなった。 ・畠敷・願万地地区近傍においても雨が長時間降り続き、三次雨量観測所(国)で雨量確率1/31の降雨を記録し、畠敷救急内水排水機場及び願万地排水機場の排水能力を大きく超える規模の降雨であった。 ・馬洗川の水位が上昇し、大谷川からの流水が馬洗川へ流れにくくなり用水路に流れ込み、下流の願万地の方へ流れ浸水範囲が拡大した。 ・浸水については以上の3項目が主な要因として意見集約された。 <p>【畠敷救急内水排水機場のポンプ停止に伴う影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畠敷救急内水排水機場のポンプが停止しなかった場合は、浸水範囲が0.7ha少なくなったと想定されることで意見集約された。 ・住民に説明する際にはわかりやすい資料とすること。 <p>【大谷川排水樋門の操作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大谷川排水樋門の操作については、樋門操作要領に基づき操作されていたと意見集約された。 ・住民に説明する際にはわかりやすい資料とすること。 <p>【浸水被害軽減対策の目標設定(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の安全・安心を確保する観点から再度災害の軽減を目指し、国、県、市が連携して平成30年7月豪雨に対して床上浸水の解消を図るこ

とを目標とした。

【内水対策の考え方】

- ・平成 30 年 7 月豪雨に対して、床上浸水を解消し浸水被害を軽減するため、国、県、市が連携して、以下に示す対策を基本的な考え方とすることで意見集約された。
- ・河川の河道掘削及び樹木伐採による馬洗川の水位の低下
- ・排水ポンプの増強
- ・支川の改良
- ・雨水貯留施設などの流域対策
- ・土地利用規制などのソフト対策

3. 閉会

※ 議事要旨と検討会資料は、明日中に三次河川国道事務所のWEBサイトにおいて公表する。

以上